

# 令和7年度 朝日小学校 前期学校評価結果・分析・改善策

		上段：教員 中段：保護者 下段：保護者	A+B	A	B	C	D	分析	今後の重点取組・方策
1 集団生活	子供たちは、学校で楽しく過ごしている。	100	47.6	52.4	0	0	0	○児童のABの回答が、昨年度85%から90.9%と大幅に改善している。 ○保護者のABの回答が、昨年度93.9%から92.4%とわずかに下がっているものの、90%を超える高い評価となっている。 ▲学校が楽しくないと感じている児童が、10%近くいるため、個別に気にかけるとともに、継続して関わり一人一人の思いに寄り添っていく必要がある。	・2学期以降も生活・総合、国語の教科等を中心に、1学期末に振り返った重点単元の具体的な取組を設定し、カリマネの柱「自ら考え行動できる子（問題発見・解決能力の育成）」に迫れるよう指導していくとともに検証を行っていく。 ・各分掌（研修学習・生徒指導・特別活動）で協議した2学期の改善策の取組を基に、いろいろな視点から共通指導を行い、児童に力を付けていく。運営会議や学年会議等を通して、振り返り、指導に生かしていく。
	学校は楽しい。	90.9	54.2	36.7	5.5	3.6	0		
	お子さんは、学校は楽しいと思っている。	92.4	46.2	46.2	6.3	1.3	0		
2 カリキュラム	子供たちが、課題解決に向け、自ら考え行動できるよう指導している。	100	66.7	33.3	0	0	0	○児童・保護者ともにAの評価が85%を超え、だいたいの児童がどの学習に對しても意欲的に取り組むことができており、保護者も同様に考えている。 ▲15%近くの児童が自分から進んで考え、取り組むことができていない回答しているため、面談を通して原因を探っていく必要がある。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。 ・児童会の取組として、挨拶の取組を企画運営していく。自分から挨拶ができる児童が増えるような啓発活動も進めていく。
	どの学習も自分から進んで考えたり、取り組んだりしている。	85.7	46	39.7	11.1	3.2	0		
	お子さんは、自分から考え行動する力が身についている。	87.4	22.4	65	11.8	0.8	0		
3 教員	子供たちが、気持ちはよいあいさつができるよう指導している。	100	66.7	33.3	0	0	0	○教職員評価ではAB評価が100%、児童評価もおよそ90%であった。教職員が良い挨拶を率先垂範し価値づけるとともに、児童も進んで挨拶をしてきたことが伺える。 ▲保護者のA評価が昨年度の37.3%よりも低い33.6%となった。さらに学校と家庭、地域が連携して挨拶を向上させていく必要がある。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。 ・児童会の取組として、挨拶の取組を企画運営していく。自分から挨拶ができる児童が増えるような啓発活動も進めていく。
	自分から進んであいさつをしている。	89.9	64.2	25.7	7.7	2.4	0		
	お子さんは、家庭や地域であいさつをしている。	83	33.6	49.4	15.8	1.2	0		
4 思いやり	子供たちが、相手を大切にした思いやりのある温かい言葉で話せるよう指導している。	100	81	19	0	0	0	○教職員A評価は昨年度75%から81%に向上了したことから、思いやりのある温かい言葉で話せるように指導していることが伺える。 ▲保護者・児童のA評価が低く、教職員の指導の成果が出ていない様子が伺える。保護者のCD評価は15%と、保護者も言葉遣いの粗さを感じていると分析できる。心無い一言が児童の良好な友達関係を妨げることもあり、楽しい学校、安全・安心な学校作りのために思いやりのある温かい言葉遣いが定着するように粘り強く指導していく必要がある。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。
	相手を大切にした温かい言葉で話している。	92	46.4	45.6	6	2	0		
	お子さんは、相手を大切にした温かい言葉で話している。	85	25.2	59.8	14.6	0.4	0		
5 安心安全	子供たちが、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している。	100	81	19	0	0	0	○保護者AB評価の割合が92%、教職員A評価が81%という結果であり、教職員も児童が安心して過ごせるように意識して指導してきたことが伺える。 ▲一方で、児童CD評価は15%を超えており、アンケートや観察、面談を通して、いじめが懸念される案件を見落とさず、丁寧に対応していくことが大切である。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。
	いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	84.1	57.5	26.6	10.3	5.6	0		
	お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	91.8	49.8	42	7.4	0.8	0		
6 給食(食育)	子供たちが、感謝の気持ちをもって給食を残さず食べよう指導している。	100	81	19	0	0	0	○教職員A評価が81%、児童A評価が77%という結果であり、感謝の気持ちを持ち、毎日の給食を残さず食べようとして指導してきたことが伺える。 ▲給食を残さないための工夫として、量を調整するなどしてきたことで、多く食べる児童とそうでない児童が差が生まれている学年もある。児童の実態に合わせて、配膳の仕方や時間の確保など、さらなる工夫をしていく。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。
	感謝の気持ちをもって、給食を残さないように食べている。	96.2	77.1	19.1	3.8	0	0		
	お子さんは、感謝の気持ちをもって食べている。	86.6	35	51.6	13.4	0	0		
7 授業	ねらいを明確にしたわかりやすい授業を行っている。	100	66.7	33.3	0	0	0	○教職員・児童アンケートにおいて、AB評価が90%を超える。教職員の日々の教材研究及び教材の工夫が結果につながったと考えられる。 ▲保護者アンケートのCD評価が約13%となっている。授業で学んだ学習が家庭学習で定着できていなかつたと捉えた保護者がいたと考えられる。今後も学年会を軸に、児童が主体的に学ぶ授業づくりの研究を行い、保護者にも発信していく。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。
	授業はわかりやすい。	91.2	57	34.2	7.2	1.6	0		
	お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	86.6	27.6	59	11.8	1.6	0		
8 読書(読書)	図書館を活用したりして、読書活動や読書指導の充実を図っている。	100	57.1	42.9	0	0	0	○教職員は、AB評価100%と項目の授業や読書の時間を通して、読書指導を意識して取り組んでいることが伺える。 ▲児童アンケートでは、AB評価が約74%、保護者アンケートで約55%となり、低い評価となっている。教職員は日頃、読書指導をしているものの、児童自らが進んで読書に親しむことは不十分であると考えられる。	・朝読書や週末読書の取組を通して、「おすすめの本」を読むことを担任から啓発していく。児童を定期的に図書ホールに連れて行き、様々な本に触れるなどを促していく。読書が苦手な児童には、個別に声掛けし、個々の実態に合った本をすすめていく。 ・「おすすめの本」の達成した児童に、表彰シールを配付し図書ファイルに貼ったり、校内放送で紹介したりしていく。
	本を借りて、朝読書の時間に進んで本を読んでいる。	74.2	41.7	32.5	21	4.8	0		
	お子さんは、週末読書の日に読書をしている。	54.9	29.7	25.2	24.4	20.7	0		
9 家庭学習	家庭学習に取り組む習慣が身につくよう指導している。	100	52.4	47.6	0	0	0	○教職員アンケートでは、AB評価が100%と項目の授業や読書の時間を通して、読書指導を意識して取り組んでいることが伺える。 ▲児童アンケートでは、AB評価が約74%、保護者アンケートで約55%となり、低い評価となっている。教職員は日頃、読書指導をしているものの、児童自らが進んで読書に親しむことは不十分であると考えられる。	・2学期以降、子供主体の取組として、玄関前の朝の挨拶運動を定期的に行っていく。またPTAの挨拶運動では、担当学年の保護者に加え、職員や児童のボランティアを募り、参加者を増やしていくことで、学校と地域の挨拶への意識を高めていく。
	家庭で、宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。	84.1	55.1	29	11.1	4.8	0		
	お子さんは、家庭学習に取り組む態度が身についている。	74.9	35.2	39.7	19.8	5.3	0		
10 人間関係づくり	子供たちが、お互いの良さや違いを認め合い、いろいろな友達と一緒に活動できるよう	100	71.4	28.6	0	0	0	○教職員アンケートで、AB評価が100%となり、昨年度と比べて5%高くなつた。教職員が互いを認め合えるように意識して指導してきたことが伺える。 ▲保護者アンケート・児童アンケート共にAB評価が90%を超えるものの、昨年度と比べて保護者アンケートは0.5%、児童アンケートは2%減少した。特に保護者の評価がいまままで、学級や継割り班でいろいろな児童と一緒に活動している様子を積極的に発信し、家庭でも学校の取り組みへの理解を深める必要がある。	・10月の運動会では継割り班ごとに座席を配置する新たな試みを実施し、異学年間交話を促進する。行事を通して、学年の違いを超えて協力できる時間となるよう工夫していく。 ・全校で行う継割り行事や持久走などの運動時間について、その成果や児童の楽しむ様子を写真や動画で記録し、学校の公式通信や保護者会で積極的に発信していく。
	お互いの良さや違いを認め、いろいろな友達と一緒に活動している。	93.3	56	37.3	5.1	1.6	0		
	お子さんは、お互いの良さや違いを認め、いろいろな友達と一緒に活動している。	91.9	37.4	54.5	7.6	0.5	0		
11 体力向上	子供たちが、1校1プランに基づき、体力を向上できるよう指導している。	100	47.6	52.4	0	0	0	○教職員アンケートで、AB評価が100%となり、昨年度と比べて20%高くなつた。また、児童アンケートも昨年度と比べて3%高くなり、70%近くの児童がA評価となつた。教職員の継続的な指導により、児童の運動習慣が身についてきたと考えられる。 ▲保護者アンケートでは、AB評価が昨年度と比べて1.1%減少した。さらに学校と家庭、地域が連携し、家庭や地域での運動習慣が向上するよう呼びかけたり、取組を考えたりする必要がある。	・各学年のカリキュラムの中で教科横断的な視点で「ジオ学習」「地域学習」を意識させる声掛けをする。 ・学年会議で、毎月カリキュラムを確認する。 ・学校の公式通信や保護者会で発信する。
	体育の授業や休み時間などに体を動かしている。	92	69.7	22.3	6	2	0		
	お子さんは、家庭や地域で体を動かしている。	86.3	46.2	40.1	8.1	5.6	0		
12 地域社会貢献	子供たちが、地域への愛着がもてるよう地域の人・もの・ことを活用して、学習を進め	100	57.1	42.9	0	0	0	○どの評価に対しても昨年度同時期と比べ肯定的評価が高くなつてきている。ジオ学習や地域に生かした学習が根付いてきていることが数値からわかる。 ▲否定的な評価が昨年度と同程度いることがわかる。	・各年度へ向けて業務の平準化のために校務分掌の見直しを進める。 ・校内の取り組みに対して、学校教育目標やカリマネの柱と照らし合わせて取り組みの精選を進める。取り組み内容を持続可能なものにしたり、新しい取り組みでは学校教育目標とカリマネの柱と照らし合わせながらスクラップ＆ビルトを検討したりする。
	わたしたちが住んでいる地域について、体験などを通して学習している。	87.3	52	35.3	9.1	3.6	0		
	お子さんは、学習を通して地域への愛着をもっている。	84.6	23.1	61.5	13	2.4	0		
13 業務改善	子供たちによりよい教育を行うため、業務改善を意識して効率的に働いている。	100	71.4	28.6	0	0	0	○昨年度の同時期と比べ43.6ポイントの上昇がみられる。日課の調整や会議の見直しなどを進めてきた結果が表れてきている。 ▲B評価に対し、業務の偏りが見られる分野があるので、業務の平準化のために校務分掌の見直しをする必要がある。	・各年度へ向けて業務の平準化のために校務分掌の見直しを進める。 ・校内の取り組みに対して、学校教育目標やカリマネの柱と照らし合わせて取り組みの精選を進める。取り組み内容を持続可能なものにしたり、新しい取り組みでは学校教育目標とカリマネの柱と照らし合わせながらスクラップ＆ビルトを検討したりする。
		0							
		0							